

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社 評価基準研究所

②施設・事業所情報

名称：登戸ピノキオ保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：軸屋泰平	定員（利用人数）：60名
所在地：神奈川県川崎市多摩区生田2-20-23	
TEL：044-819-5581	ホームページ： <a href="https://seido-kai.com/base/noborito-pinokio/">https://seido-kai.com/base/noborito-pinokio/</a>
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2019年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人正道会	
職員数	常勤職員：15名 非常勤職員：16名
専門職員	園長 1名 保育士 19名
	看護師 1名 栄養士 2名
	調理士 2名 子育て支援員 2名
	保育補助 2名 調理補助 2名
施設・設備の概要	（居室数）8室 （設備等）0歳児室、1-2歳児室 3-4-5歳児室、多目的スペース、 事務室、医務室、調理室、相談室

③理念・基本方針

理念体系：SEIDOKAI ROAD

法人理念：子どもと共に「今」を生き、「未来」を拓く

保育理念：共生と共学

④施設・事業所の特徴的な取組

保育方法：見守る保育(FUJIMORI METHOD)

実施事業：通常保育、一時保育事業

特徴的な取組：ピノキオ食堂(子ども食堂)、ピノキオおやこ園(園開放・園庭開放)  
ふれあい広場(地域子育て支援事業)

新プロジェクト：隣接するピノキオプラス(児童発達支援・放課後等デイサービス)とのインクルーシブ保育の展開

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年8月1日（契約日）～ 2024年 3月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1) 法人が設置した地域の様々な人が日常的に交流できる拠点と連携して、新たな子育て支援事業を行える環境を整備しつつあり、今後の発展が大きく期待できる

地域向けの子育て支援事業（ふれあい広場）では、保育士、看護師、栄養士が専門性を生かして、例えば遊びの提案、感染症予防、食事の指導などを行っている。また、法人が高齢者、卒園児など地域の方が集える拠点として、園庭続きの隣接に登戸ベース（障害児通所支援事業・児童発達支援・放課後等デイサービスを行う施設）を立ち上げた。4月には地域の方も集えるカフェもオープンする予定で、様々な人が日常的に交流する場を目指しており、職員が相互の業務に関わることができる体制も整えている。今のところ明確な計画はないが、園が地域向けに実施している子育て支援事業が、登戸ベースと連携することによって、例えば地域の方々との交流、施設間連携を通じて新たな視点で効果的な取り組みに発展していくことに期待できる施設である。

## 2) 週ごとの担当会議の成果が職員の課題意識の高さに現れている

職員の課題意識の高さが、より良い保育実現に貢献している。職員によって多少の熱量のバランスはあるものの、リーダー層が中心となり、全体的に皆、課題意識を持ちながら日々の取り組みを行っている。特に週ごとの担当会議においてKPTシートを用い自己分析する機会は、職員が課題意識を持って行動することへの訓練となり、現場のさまざまな取り組みに生かされている。各会議の際、必要に応じて専門分野の職員も交えながら、子どもたちの観察や記録をもとに保育計画の作成や見直しを実施している。うまくいった計画であっても必ず課題点を導き出し、改善部分を実行に移す速さはこの園の特徴的な姿である。外部の専門家や姉妹園の職員との交流や学びも積極的に行っており、自分たちの保育に新たな視点や知識を取り入れている点も評価できる。

## 3) 子ども主体の保を進めるために様々な方法でアプローチを続けている

法人の掲げる「SEIDOKAI ROAD」や関東支部テーマ、教育・保育理念、方針、目標が確立されている為、保育に求められるものや学ぶべき内容が職員には理解しやすい提示がされている。園長やリーダーは課題をいち早く見つけ、職員とともに速やかに改善を行っている。各フロアはゾーニングされ、子どもが遊びたい所でいつでも遊べる環境を工夫している。幼児の朝の会では子どもが遊びを決定したり、5歳児のサークルタイムで課題を話し合う等、子どもの気づきや考えを尊重した特徴のある保育を行っている。法人が掲げている「保育者としての信念」（三省）が職員に浸透しつつあり、子どもの声を聴き必要な時にかかわる姿が多く見られる。職員の休憩室を改善したことにより、書籍の充実や情報の共有などやチーム連携がよくなっている。園の課題にスピード感をもって取り組む姿勢がある点も本園の優れた特徴となっている。

### ◇改善を求められる点

#### 1) 中長期計画、単年度の事業計画、事業実施のための計画について、連動性を意識して作成することが望まれる

法人の中長期計画に基づいて単年度の事業計画を作成し、事業実施に繋げている。し

かしながら、同じ敷地内に設置している系列施設との連携など長期的視点での取り組みを検討しているなど、園独自の中期計画を工夫することが必要である。また、昨年度の事業計画では13の事業が掲げられているが、事業報告では多くの事業がまだ反映されていない点もある。さらに、実施はしているものの単年度の計画書に盛り込まれていない事業も複数見受けられるため、今後は、例えば中期計画、単年度計画、事業実施のための計画について盛り込む内容を明確にするとともに、実施後は計画に対する報告（評価）を行って次期の計画に反映するサイクルを仕組みとして構築するなど、各計画と報告（評価）の方法、各計画の連動体制を明確することが望まれる。

## 2) 保護者の意見も意識しながら、より安心感のある保育園を目指してほしい

当園では、連絡アプリのアンケート機能を用い保護者からの意見を募集している。アンケート集計結果の公表なども行っており、これらは高く評価される。しかし、利用者満足、更なる保護者との連携を向上させるには、保護者の意見がどのように活用されているのか、具体的にフィードバックすることが必要である。実際に園ではアンケートで寄せられた意見をもとに、臨時で会議を行うなどし、現場に生かしているが、それらが保護者にまで伝わっていない部分も見受けられる。フィードバック内容はまだ改善の余地があり、実際に“意見”がどのように職員共有されているのか、どのように話し合われたのか、現場でどう生かされたのか、といった「その後」と言われる部分についてまで伝えられるようになれば、より安心感のあるものとなるだろう。

## 3) 園の特色を生かした保育を進め、さらなる保育環境の発展に期待したい

職員間も保育アプリを使い事務の効率化や情報共有を行っている。早急に対応が必要な場合は職員には対面式で報告・連絡・相談も行っている。アプリに関しては、職員すべてが使いこなすところまでは達していないが、今後の情報の共有化や利用推進に期待したい。保育室はゾーンごとに区切られ子どもの様子を見ながら保育環境を工夫しているが、量的なことや色々な素材、道具、時間などを工夫すると子どもの創作意欲がより高められる可能性がある。子どもたちのやりたい思いを生かし、各フロアを行き来しながら自由に遊べる環境構築を意識しているが、子どもたちの「やりたい遊び」の充実にはまだまだ改善が期待される。この課題は園長も意識しており、今後これらの課題をクリアして、子どもがのびのびと遊びこめる環境の完成が待たれる。今後は保育者の増員が見込まれるとのことであり、個々の育ちの支援や遊びの質のさらなる向上に期待したい。

### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

事業所名：登戸ピノキオ保育園

・在園児にとっては当然のこと、地域に根ざし必要とされる保育園であることを目指し、保育の質をより高め、地域向けの子育て支援事業や園開放、子ども食堂等の取り組みを深化させることが必要だと認識している。また、保育園と新設の登戸ベースが連携し一体的な運営を行うことで、より多くの人々が集い、繋がる施設を目指していきたい。

・保育の質の向上と園児、保護者の更なる安心感の醸成の為に、職員の育成と定着の為に取り組みを組織的、体系的に行うとともに、保育内容の充実、保育環境の発展を図ってまいりたい。

・法人や関東支部の方針に基づいた園としての中長期計画を策定し、単年度の事業計画に反映することが必要であると認識している。また、事業計画と事業報告を連動し、実行と評価、改善のサイクルを構築することで、運営力の更なる向上に努めてまいりたい。

⑧第三者評価結果  
別紙2のとおり